山　梨　県
商工会地区

中小企業景況調査報告書

（平成19年４月～６月実績
平成19年７月～９月予測）

未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目　　次

Ⅰ　調　査　要　領 …… 1

Ⅱ　景　　況

１．産業全体の景況概観 …… 2

２．製造業の動向

⑴　景　況　概　観 …… 3

⑵　主な項目でみる業況 …… 3

３．建設業の動向

⑴　景　況　概　観 …… 6

⑵　主な項目でみる業況 …… 6

４．小売業の動向

⑴　景　況　概　観 …… 9

⑵　主な項目でみる業況 …… 9

５．サービス業の動向

⑴　景　況　概　観 …… 12

⑵　主な項目でみる業況 …… 12

【Ⅰ】　調　査　要　領

１．調　査　対　象

⑴　対　象　地　区　　１１商工会

⑵　対 象 企 業 数　　１６５企業

⑶　回 答 企 業 数　　１６４企業

２．調査対象期間

第１四半期　　平成19年４月～６月期

調 査 時 点　　平成19年６月５日

３．調　査　方　法

県下の調査対象企業を１１商工会の経営指導員が訪問面接調査

４．調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製　造　業	建　設　業	小　売　業	サービス業	計
都　留　市	3	3	5	4	１５
南アルプス市	4	2	5	4	１５
北　杜　市	4	2	5	4	１５
甲　斐　市	3	3	4	5	１５
笛　吹　市	3	3	4	5	１５
上 野 原 市	3	3	4	5	１５
甲　州　市	3	2	6	4	１５
鰍　沢　町	4	2	6	3	１５
身　延　町	4	2	6	3	１５
中　央　市	4	2	6	3	１５
河　口　湖	4	2	6	3	１５
計	３９	２６	５７	４３	１６５

５．そ　の　他

本報告書のＤＩ値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】　景　　況

1．産業全体の景況概観

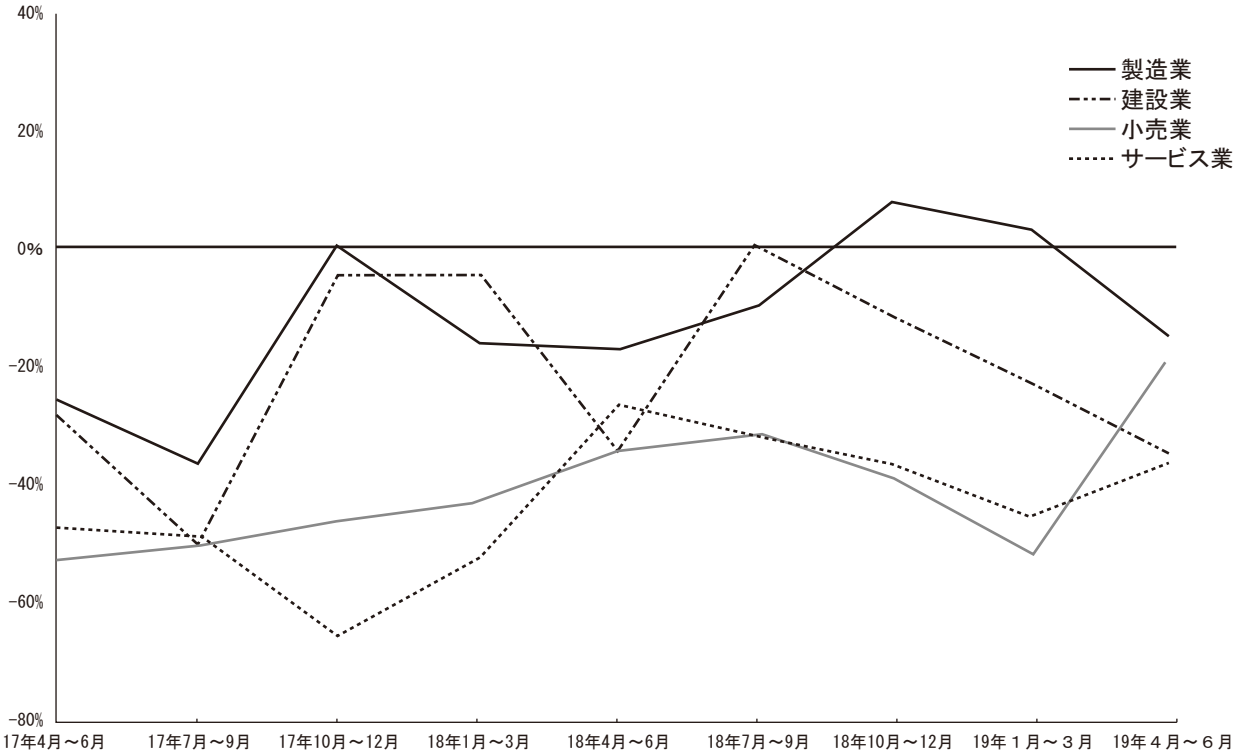
本県の「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」４業種の過去２年間の売上額(完成工事高)の推移は下図のとおりである。ここでいう売上額ＤＩとは、今期の売上額状況を前年同期と比較したものである。まず、製造業から見ていくと前期の売上額ＤＩ2.6であったものが、今期はマイナス15.4となり18ポイントの下落である。日銀短観で言われているように、県内の主力製造業である半導体・電子部品の伸び悩みが主な要因であると判断される。建設業は、前期の完成工事高ＤＩマイナス23.1から11.5ポイント悪化し、マイナス34.6である。このＤＩは前年同期と全く同じ数値である。この四半期は、公共工事が低下する時期であるとともに、受注量の減少傾向が続いていることを物語っている。

これら２業種と比べ、小売業とサービス業は改善傾向を見せている。小売業は、前期の売上額ＤＩがマイナス44.8だったものが、今期はマイナス35.7と9.1ポイント回復した。サービス業については、前期の売上額ＤＩがマイナス51.2であったのが、32.6ポイントと大きく好転しマイナス18.6となった。製造業に続く売上額ＤＩの良さであった。

次に、４業種の来期の見通しについては、製造業は今期ＤＩよりいくらか好転しマイナス12.9である。建設業は、さらに悪化しマイナス42.4と厳しさが続くとみている。小売業は、今期好転したのであるが、来期には再び悪化してマイナス45.4と見通しは暗い。サービス業も、小売業と同様に改善しかけているかに見えたが、来期の見通しはマイナス39.5と今期より20.9ポイント悪化する。

山梨県　全産業 DI

売上（完成工事）額の推移　－前年同期比－

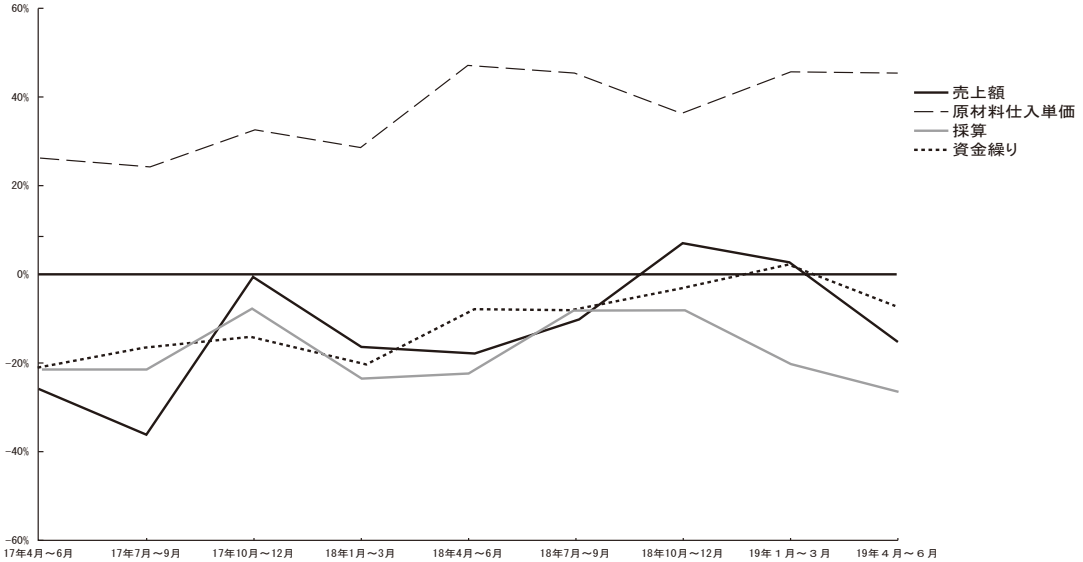


2. 製 造 業 の 動 向

1. 景 況 概 観

下図は、製造業の過去２年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。売上額については、すでに述べたとおりである。原料仕入単価は、ほとんど横ばいのＤＩ45.5であった。来期の見通しは、前期と比べ２社が「上昇」から「不変」と答えたため、ＤＩは39.4となり好転傾向を示した。採算についても、ほぼ横ばい傾向でありマイナス26.3であった。来期の見通しは、マイナス18.4といくらか改善される様子である。資金繰りについては、前期ＤＩ2.5であったのがマイナス7.9と「低下」と答えた企業が８社あり悪化した。来期の見通しは、マイナス15.8と悪化する。

山梨県　製造業 DI　　主要景況項目の推移－前年同期比－

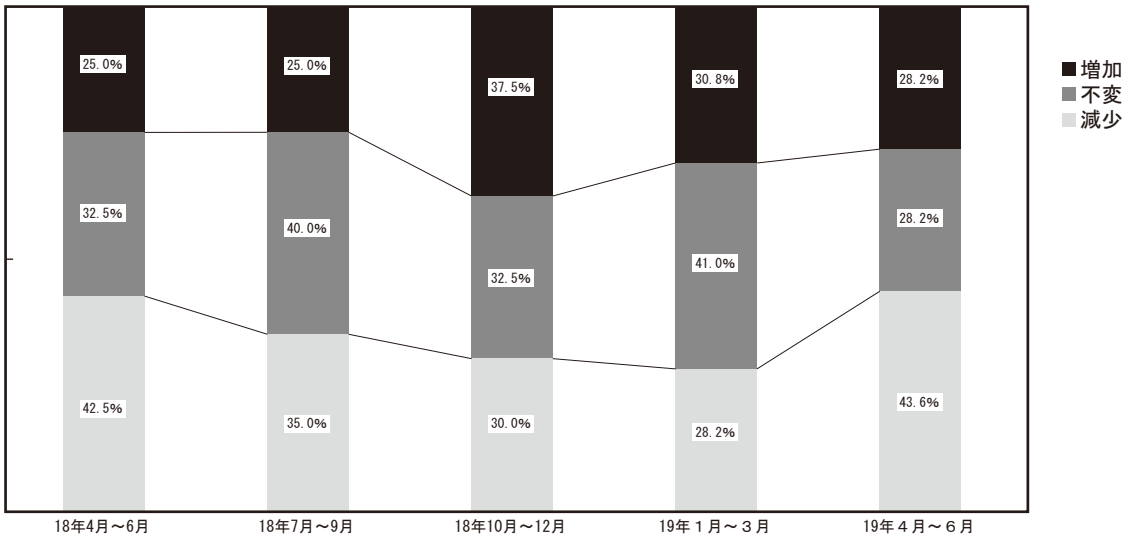


2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、過去１年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額ＤＩマイナス15.4となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合が28.2%、「不変」も28.2%、「減少」が43.6%という内訳である。前期と比べると「増加」は余り変わらないが、「不変」が12.8%少なくなり、「減少」が15.4%多くなったのが原因であることが分かる。

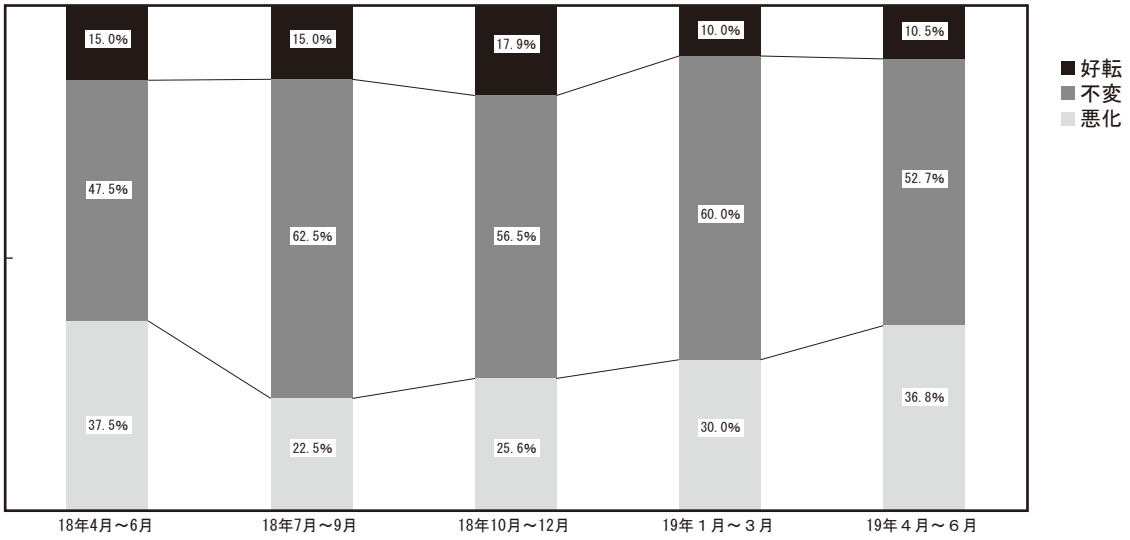
山梨県　製造業　　売上額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

今期の採算ＤＩマイナス26.3についても、その詳細を見てみよう。「好転」が10.5%、「不変」が52.7%、「悪化」が36.8%という回答の内容である。前期と比べると、「好転」はほとんど変わらず、「不変」が7.3%減少し、「悪化」が6.8%増加した。

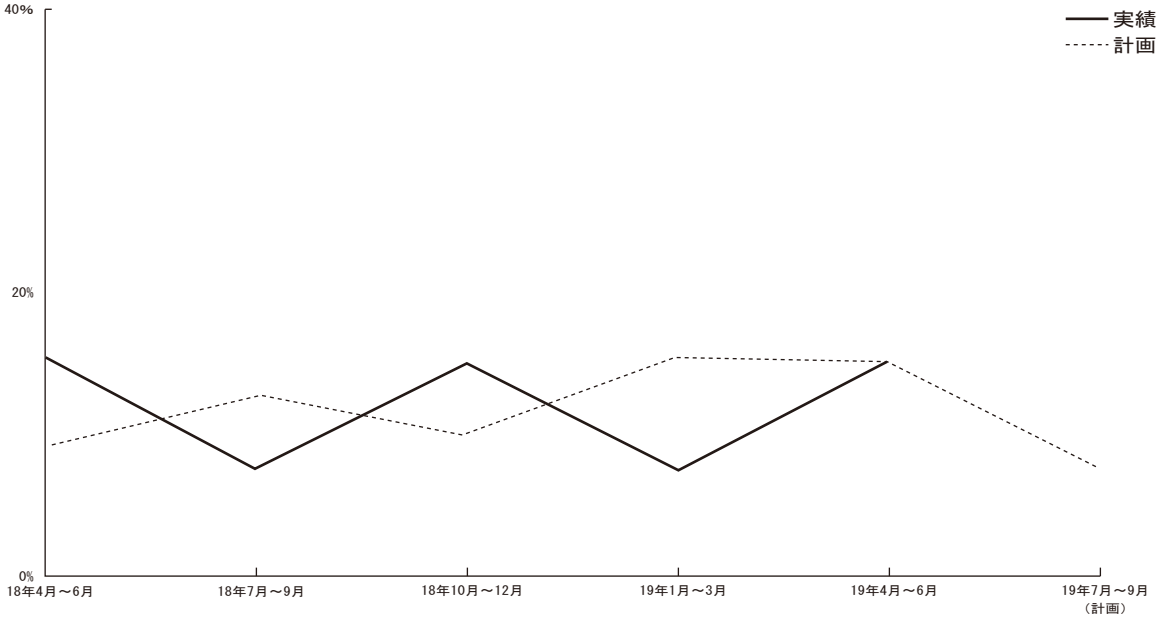
山梨県　製造業　　採算の状況－前年同期比－



⑶　設備投資

下図は、過去１年間の設備投資の状況を示したものである。前期7.5%と比べ、今期は約倍の15.4%と増えた。今期設備投資を実施した企業は６社で、その内訳は、「生産設備」６件、「ＯＡ機器」２件ということであった。来期の計画は、また半減し３社である。「土地」「生産設備」「車両・運搬具」「ＯＡ機器」が１件ずつで、「工場建物」が２件である。前期と比べると設備投資企業数は半減するが、多岐にわたる投資が行われる見込みである。

山梨県　製造業　　設備投資の状況

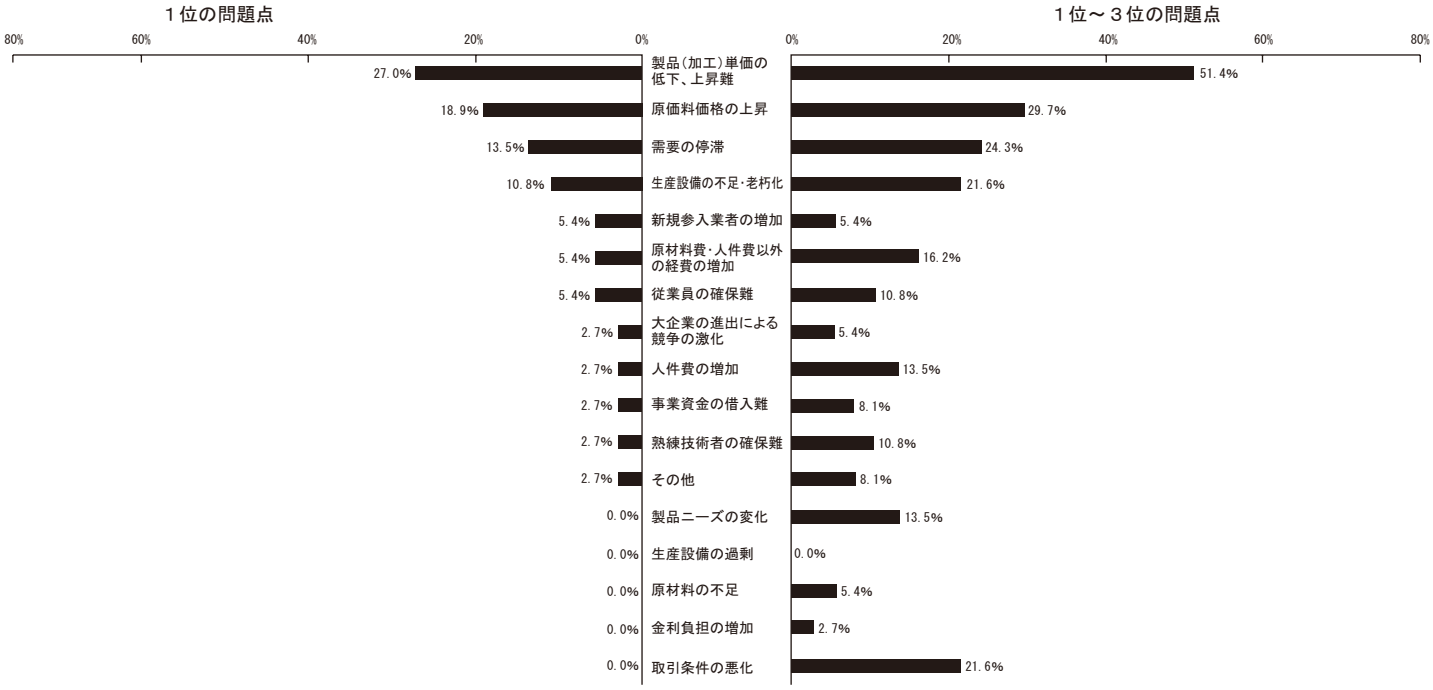


(4)　経営上の問題点

製造業における経営上の問題点は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、「製品(加工)単価の低下、上昇難」が圧倒的に多く10社の27.0%であった。続いて、「原材料の価格の上昇」が18.9%、「需要の停滞」13.5%、「生産設備の不足・老朽化」10.8%であった。

次に「一～三位」を見ると、「一位」に挙げた項目と同様の「製品(加工)単価の低下、上昇難」が19社の51.4%で半数以上が問題点として答えた。続いて、「原材料の価格の上昇」が29.7%、「需要の停滞」が24.3%と「一位」に上げた項目と順位は同じであった。４番目には、「取引条件の悪化」が21.6%である。

山梨県　製造業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5)　回答企業の内訳

業種別

業　　種	企業数	構成比
食料品製造業	6	15.4
衣服・その他繊維製品製造業	1	2.6
印刷・同関連業	2	5.1
化学工業	1	2.6
プラスチック製品製造業	4	10.3
窯業・土石製品製造業	2	5.1
金属製品製造業	1	2.6
一般機械器具製造業	6	15.4
電気機械器具製造業	2	5.1
輸送用機械器具製造業	4	10.3
精密機械器具製造業	2	5.1
その他製造業	8	20.4
合　　計	39	100.0

従業員規模別

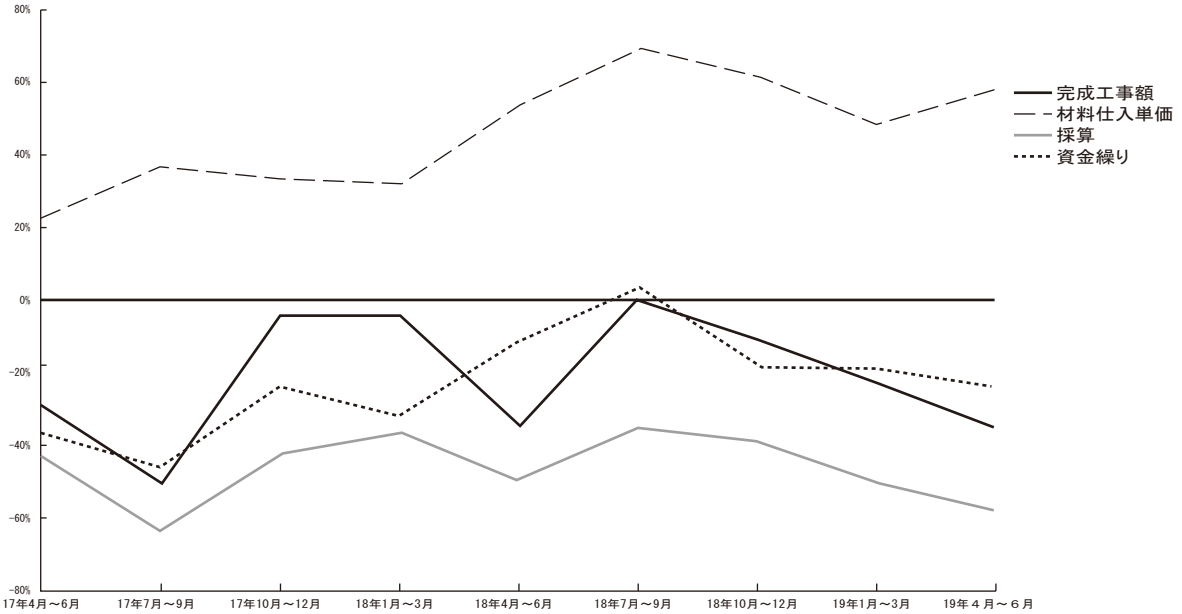
雇用形態 / 従業員数	常　雇　い		臨時等含む	
	企業数	構成比	企業数	構成比
２人以下	18	46.2	12	30.8
３人～５人以下	9	23.0	10	25.6
６人～１０人以下	3	7.7	7	17.9
１１人～２０人以下	4	10.3	4	10.3
２１人～５０人以下	5	12.8	6	15.4
合　　計	39	100.0	39	100.0

3. 建　設　業　の　動　向

1. 景　況　概　観

「完成工事高」については、産業全体の景況概観で述べたので「材料仕入単価」「採算」「資金繰り」を見ていきたい。材料仕入単価ＤＩは、57.8と前期より9.8ポイント高まった。来期の見通しは、61.6とさらに上昇傾向を見せている。材料の高騰は受注高の減少とともに、経営の圧迫要因になっている。よって採算に影響を与え、今期のＤＩはマイナス57.8という結果で7.7ポイント悪化した。来期の見通しは、マイナス46.2と改善する様子である。資金繰りＤＩも、前期マイナス19.2からマイナス23.1と悪化している。来期の見通しは、さらにマイナス30.8と悪化傾向が続く。

山梨県　建設業 DI　　主要景況項目の推移－前年同期比－

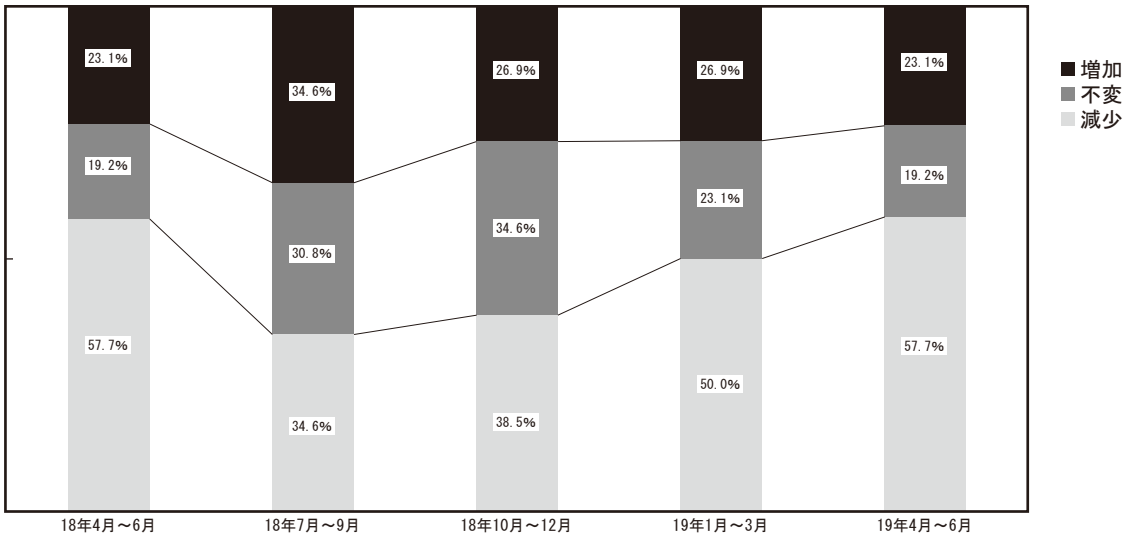


2. 主な項目で見る業況

(1)　完成工事額

過去1年の「完成工事額」の状況の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額ＤＩマイナス34.6の内訳をみると、「増加」が前期より3.8ポイント減り23.1%、「不変」が同じく3.9ポイントの減少で19.2%、「減少」は7.7ポイント増えて57.7%である。この１年間「増加」が減少傾向であるのに対し「減少」が増え続けており、誠に見通しは暗い。

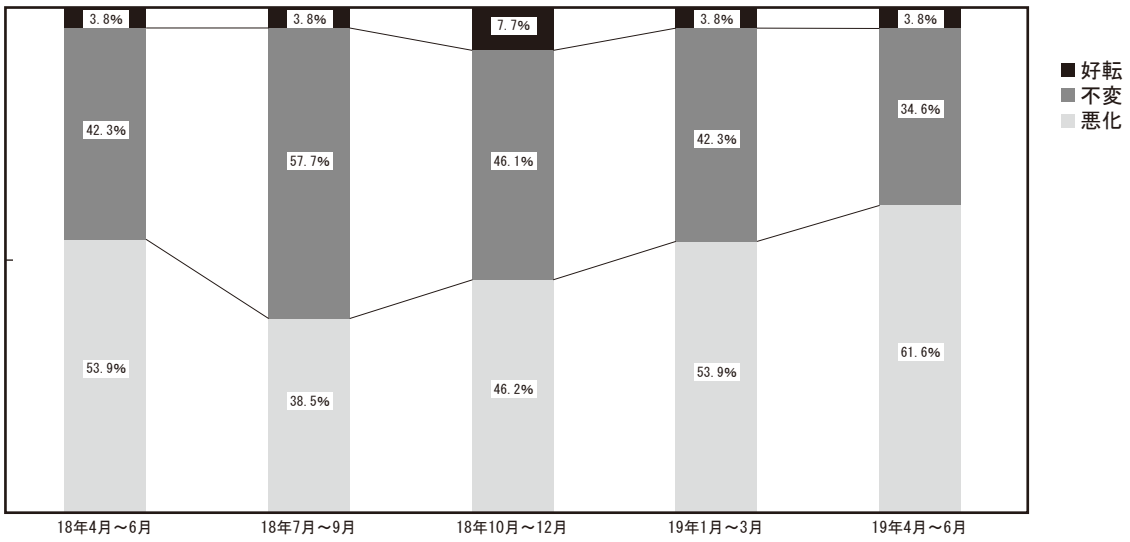
山梨県　建設業　　完成工事額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

採算状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算ＤＩマイナス57.8の内訳は、「好転」が１社のみで前期と変わらず、「不変」が7.7ポイント減少し34.6%、「悪化」が同ポイント増加して61.6%である。ついに、「悪化」と答えた企業が6割を超えてしまっている。来期の見通しについてのＤＩは、底打ち傾向を見せている。

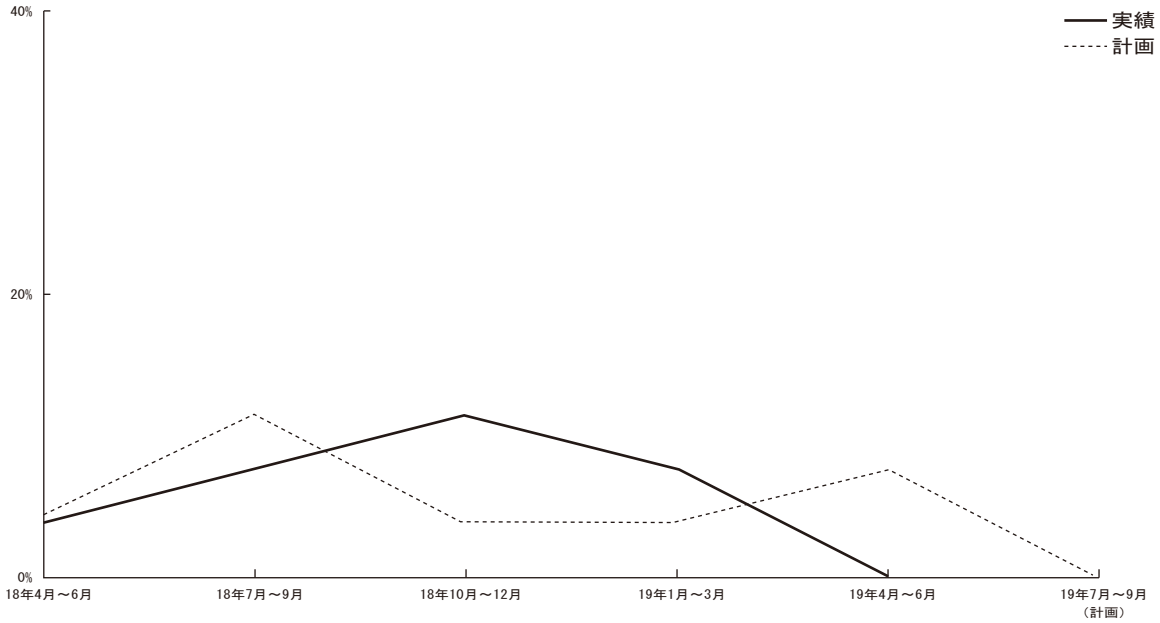
山梨県　建設業　　採算の状況－前年同期比－



⑶　設備投資

今期において、設備投資を実施した企業は皆無であった。来期の計画についても１社もない状況である。今後の見通しが暗い中で、守りに入っている経営姿勢が見て取れる。

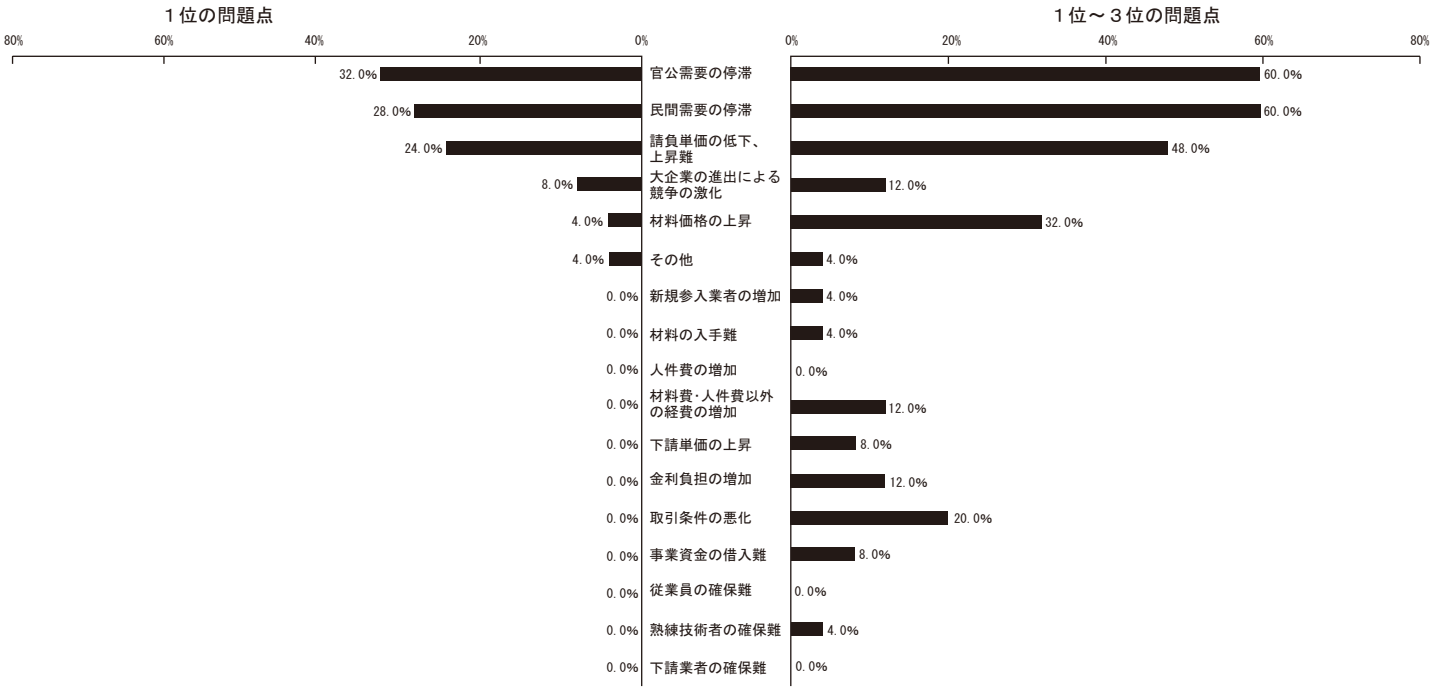
山梨県　建設業　　設備投資の状況



⑷　経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと次の３項目に尽きるようだ。最も多かった答えは「官公需要の停滞」を8社が挙げており32.0%、続いて「民間需要の停滞」が7社の28.0%、「請負単価の低下、上昇難」が6社の24.0%であった。「一～三位」に挙げたものを見ると、「官公需要の停滞」と「民間需要の停滞」が15社ずつ60.０%で最も多かった。続いて「請負単価の低下、上昇難」が48.0%、「材料価格の上昇」32.0%、「取引条件の悪化」が20.0%であった。これらの経営上の問題点は、これまでの(1)～(3)の項目のデータの裏づけを示していると言える。

山梨県　建設業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



⑸　回答企業の内訳

業種別

業　　種	企業数	構成比
総合工事業	18	69.2
職別工事業	5	19.3
設備工事業	3	11.5
合　　計	26	100.0

従業員規模別

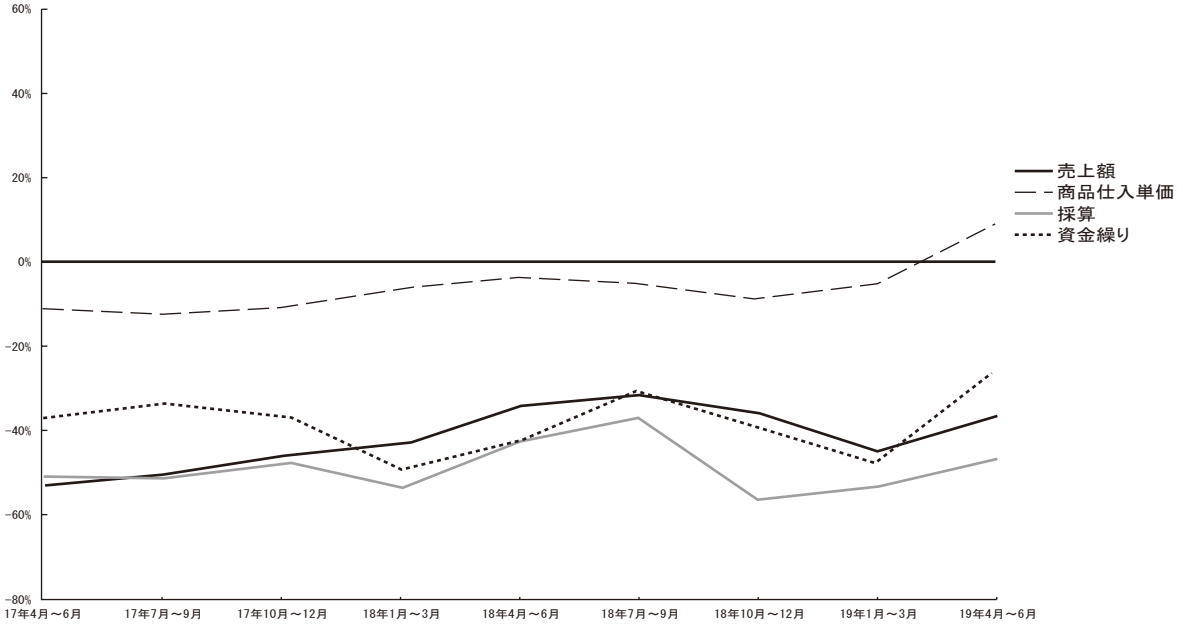
雇用形態 ＼ 従業員数	常　雇　い		臨時等含む	
	企業数	構成比	企業数	構成比
２人以下	11	42.3	10	38.5
３人～５人以下	9	34.6	9	34.6
６人～１０人以下	1	3.9	2	7.7
１１人～２０人以下	3	11.5	3	11.5
２１人～５０人以下	2	7.7	2	7.7
合　　計	26	100.0	26	100.0

4. 小 売 業 の 動 向

1. 景 況 概 観

「売上額」については、これまでに見てきたとおりであるので、「商品仕入単価」「採算」「資金繰り」についての解説をしたい。「商品仕入単価」ＤＩは、これまでデフレ局面が続く中、前期マイナス5.3からプラス9.1となり、仕入単価が上昇傾向を見せはじめている。来期の見通しは、ＤＩ1.9と落ち着いたものとなっている。次に「採算」ＤＩであるが、前期マイナス53.5から7.1ポイント改善しマイナス46.4となったが、相変わらず収益状況は厳しさが続く。来期の見通しは、若干の改善のマイナス40.0である。「資金繰り」ＤＩは、前期マイナス47.4から22.4ポイントの大幅な改善をみせ、マイナス25であった。来期の見通しは、またまた悪化傾向でマイナス40.0である。

山梨県　小売業 DI　　主要景況項目の推移－前年同期比－

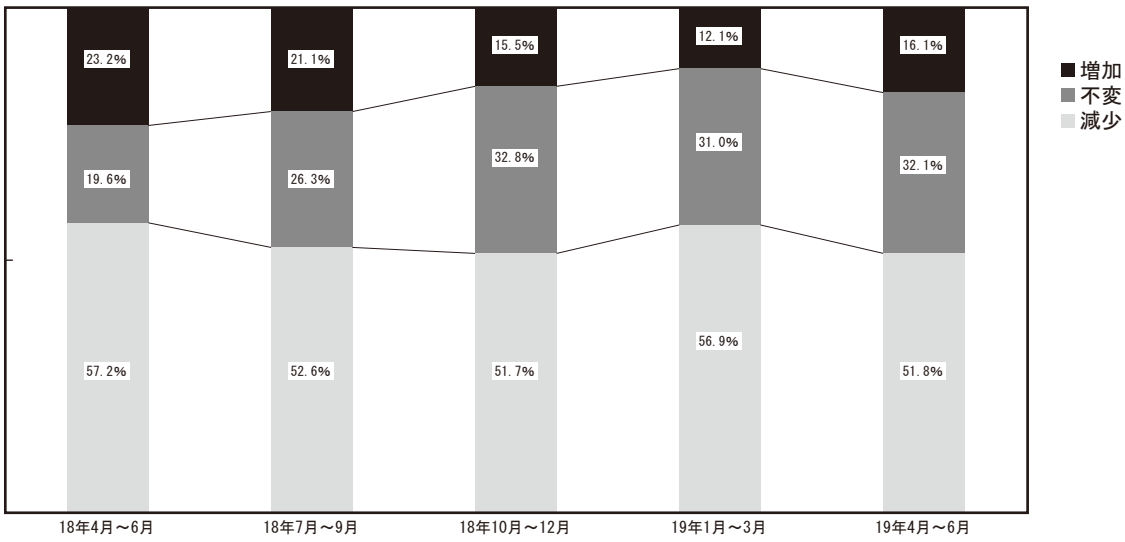


2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、ここ１年間の売上額状況の推移を示したものであるが、今期の売上額ＤＩマイナス35.7の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業の割合は前期12.1%より少し増えて16.1%、「不変」企業はほぼ3割の横ばいで推移し、「減少」企業は5.1ポイント低下し51.8%であった。この１年間、「減少」と答えている企業は半数を上回り続けている。

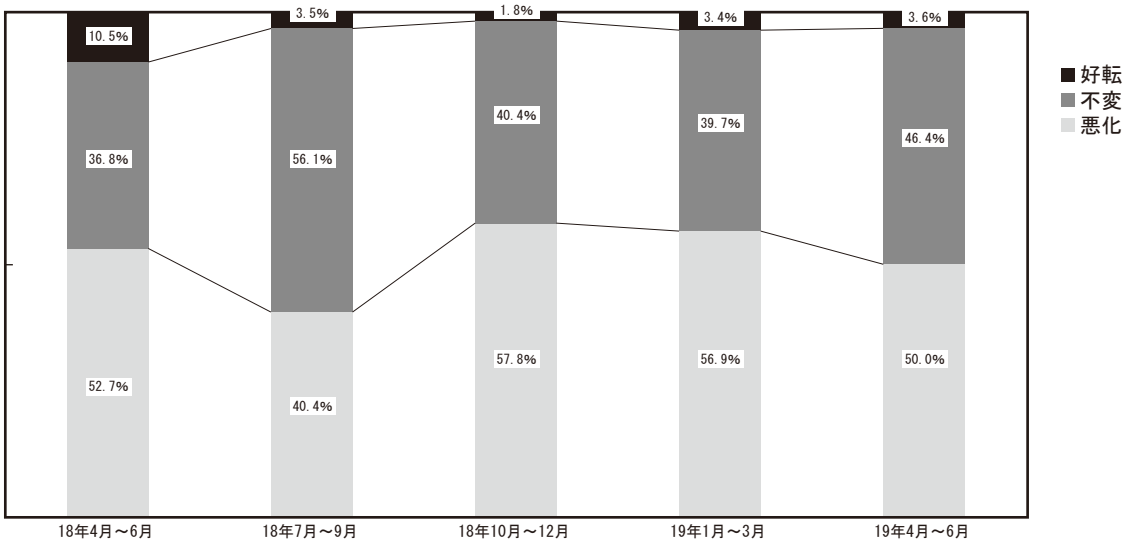
山梨県　小売業　　売上額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

下図も、この１年間の採算状況の推移を示したものである。今期の採算ＤＩマイナス46.4の内訳をみると、「好転」は2社のみで前期と変わっておらず、「不変」は6.7ポイント増え46.4%、「悪化」は前期より6.9ポイント減少し、ちょうど半数の28社であった。小売業も相変わらず、厳しさが続く。

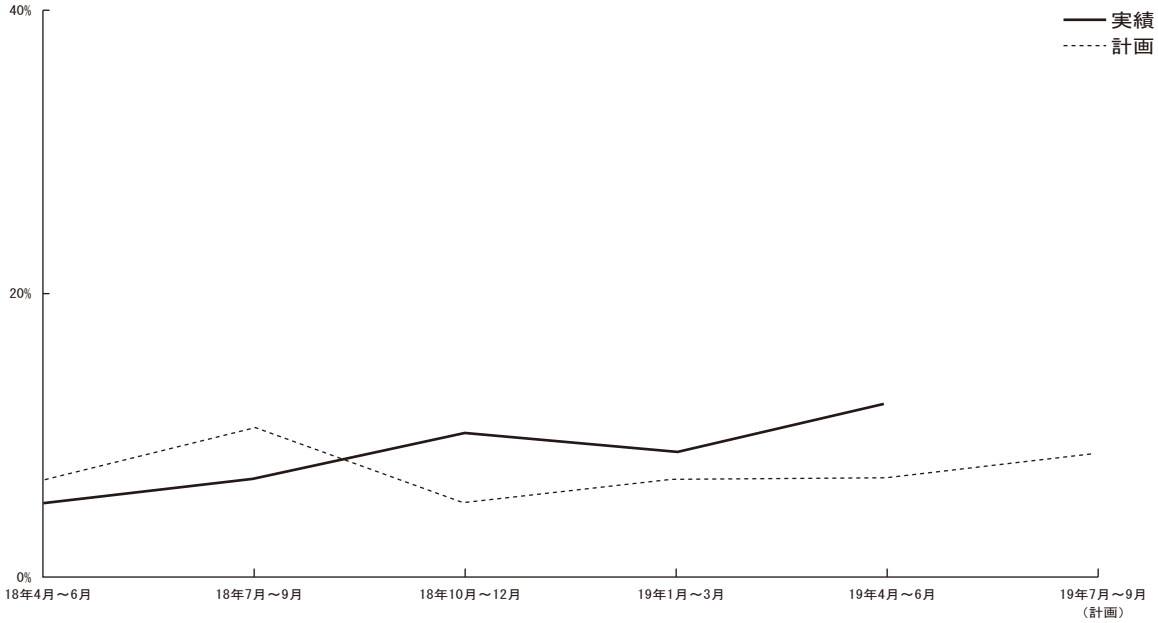
山梨県　小売業　　採算の状況－前年同期比－



⑶　設備投資

小売業の今期における設備投資状況をみると、実施企業数は7社である。その内容は「販売設備」「車両・運搬具」「ＯＡ機器」がそれぞれ2件ずつである。そして「付帯施設」と「その他」が1件ずつである。来期の計画は5社が実施を予定しており、「店舗」の新改装が2社、「販売設備」「車両・運搬具」「ＯＡ機器」「その他」が各1件ずつである。

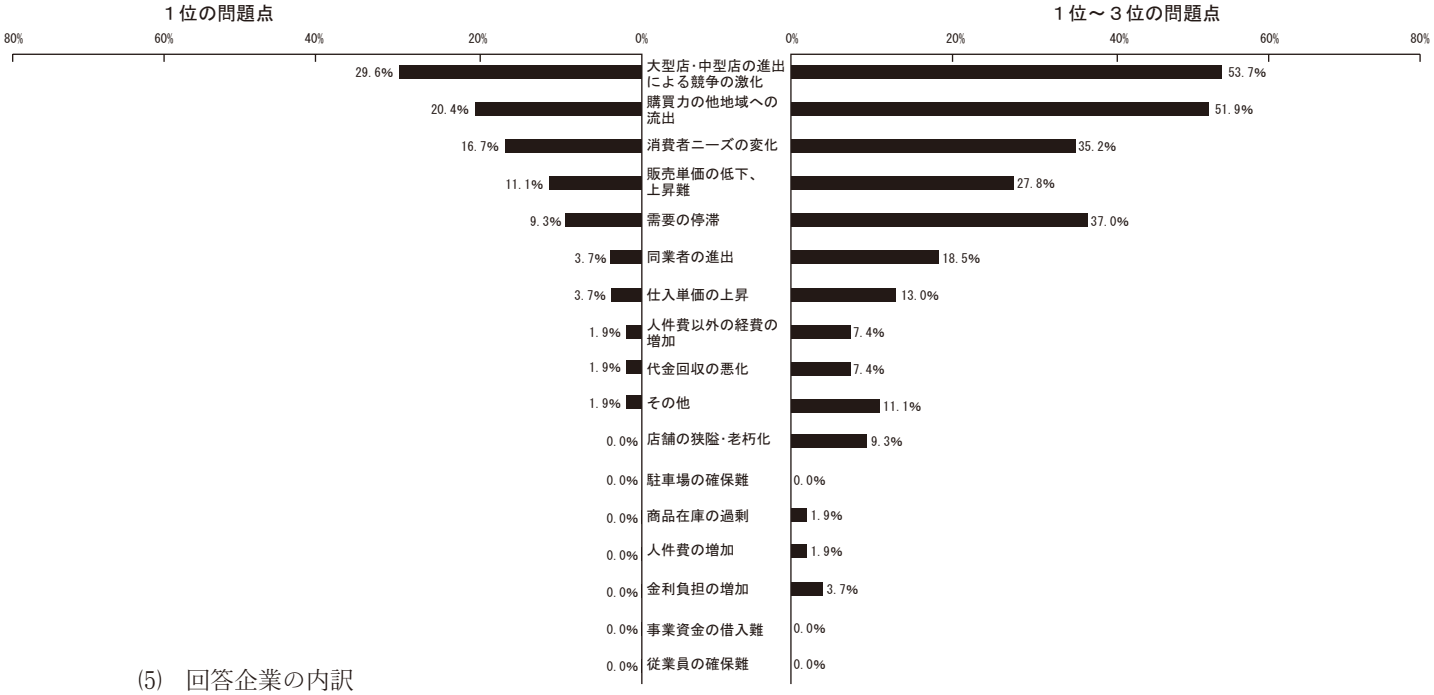
山梨県　小売業 DI　　設備投資の状況



(4)　経営上の問題点

「一位」に挙げてもらったものから見ていくと、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が約3割で最も多く、続いてこの答えと関連するといえる「購買力の他地域への流出」が20.4%である。さらに「消費者ニーズの変化」が16.7%と続いている。次に「一～三位」に挙げられた答えをみると、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が53.7%と半数を超え、「購買力の他地域への流出」が約半数、「需要の停滞」が37.0%、「消費者ニーズの変化」35.2%、「販売単価の低下、上昇難」が27.8%と続いている。

山梨県　小売業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5)　回答企業の内訳

業種別

業　　種	企業数	構成比
織物・衣服・身の回り品小売業	10	17.8
飲食料品小売業	16	28.6
自動車・自転車小売業	3	5.4
家具・建具・じゅう器小売業	8	14.3
その他小売業	19	33.9
合　　計	56	100.0

売場面積別

売　場　面　積	企業数	構成比
50㎡未満	27	48.1
50㎡～100㎡未満	20	35.7
100㎡～200㎡未満	3	5.4
200㎡～500㎡未満	3	5.4
500㎡～1000㎡未満	3	5.4
合　　計	56	100.0

従業員規模別

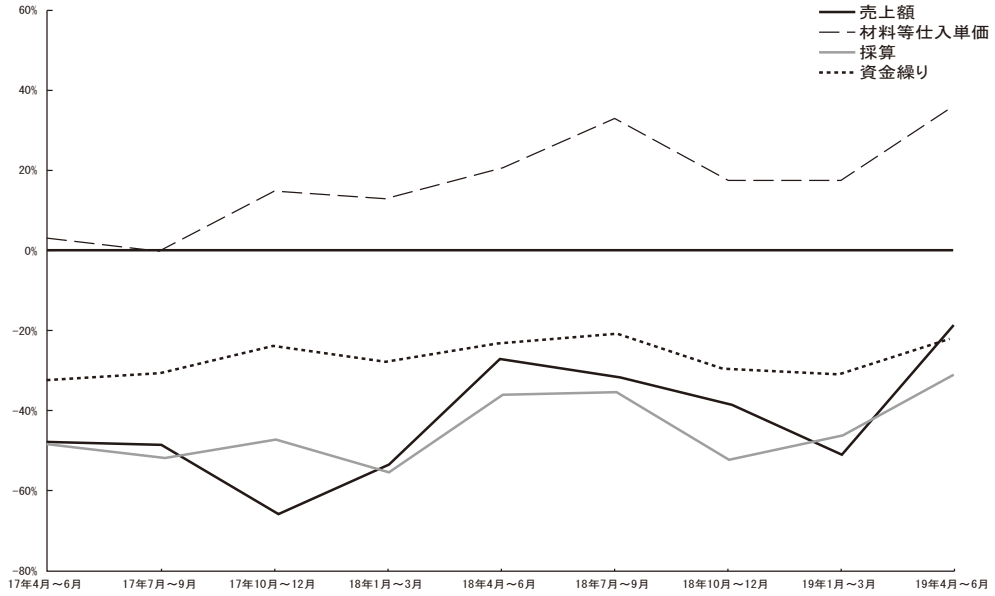
雇用形態 ＼ 従業員数	常　雇　い		臨時等含む	
	企業数	構成比	企業数	構成比
２人以下	42	75.0	38	67.9
３人～５人以下	11	19.6	13	23.1
６人～１０人以下	3	5.4	3	5.4
１１人～２０人以下	0	0.0	1	1.8
２１人以上	0	0.0	1	1.8
合　　計	56	100.0	56	100.0

5. サービス業の動向

1. 景況概観

サービス業についても、売上額ＤＩは前記したので「材料仕入単価」「採算」「資金繰り」についてふれてみたい。「材料等仕入単価」ＤＩであるが、前期より18.2ポイント上がり35.7という、この１年間のうちで最も高い水準である。来期の見通しは、やや下がり28.6である。次に「採算」ＤＩであるが、改善傾向を見せ前期より15.1ポイント上がりマイナス31.0である。来期の見通しは、また悪化傾向でマイナス40.5である。「資金繰り」ＤＩは、前期マイナス30.7から8.7ポイント改善しマイナス22.0である。来期の見通しは、ほぼ横ばいでマイナス24.4である。「材料等仕入単価」が上昇傾向にあるのが気になるが、収益及び資金面でいくらか好転していると言えるだろう。

山梨県　サービス業 DI　　主要景況項目の推移－前年同期比－

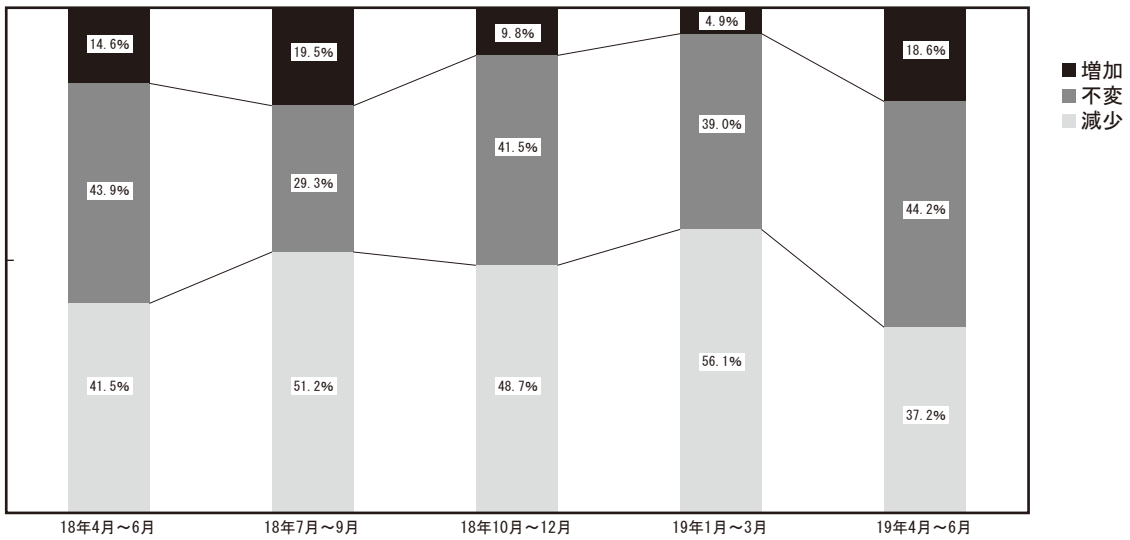


2. 主な項目で見る業況

(1)　売上額

この１年間の売上額の推移状況から、当期売上額ＤＩマイナス18.6の分析を進めると、「増加」が前期4.9%から18.6%に増え、「不変」も5.2ポイントの増加で44.2%であった。「減少」は56.1%から18.9ポイントの改善で37.2%となった。この１年間では、最も良い景況感であると言える。

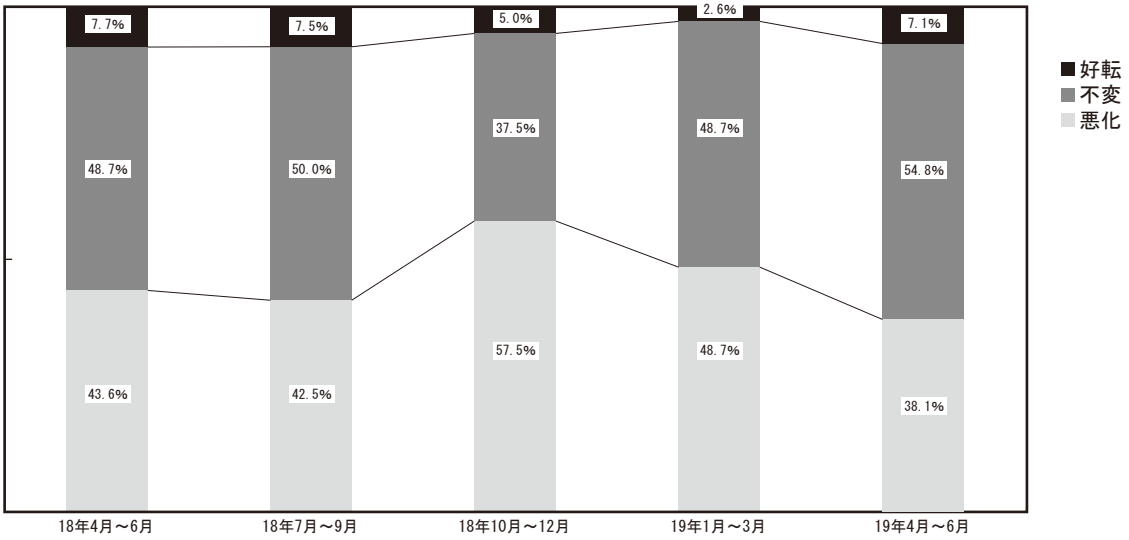
山梨県　サービス業　　売上額の状況－前年同期比－



⑵　採　　算

採算状況も、この１年の間では最も良いといえそうである。今期採算ＤＩマイナス31.0の内訳は、「好転」が前期より4.5ポイント改善し7.1％、「不変」は6.1ポイント増加し54.8％と半数を超え、「悪化」は10.6ポイントの改善で38.1％である。しかし、全体的に好況感からは程遠いのが現状である。

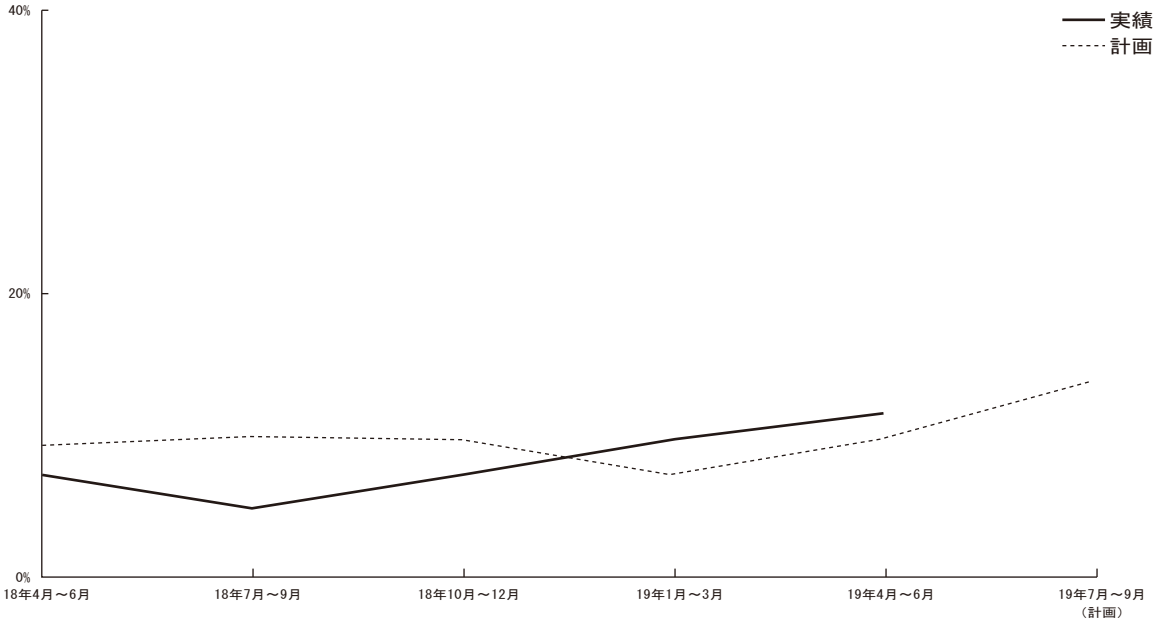
山梨県　サービス業　　採算の状況－前年同期比－



⑶　設備投資

今期サービス業で設備投資を行った企業は、5社である。その内訳は「サービス設備」と「付帯施設」が2件ずつ、「車両・運搬具」と「ＯＡ機器」が各1件ずつであった。今期設備投資実施企業割合は11.6％である。来期の計画については、今期より1社増え6社が予定している。「ＯＡ機器」が4件、「土地」「サービス設備」「車両・運搬具」「付帯施設」がそれぞれ1件である。

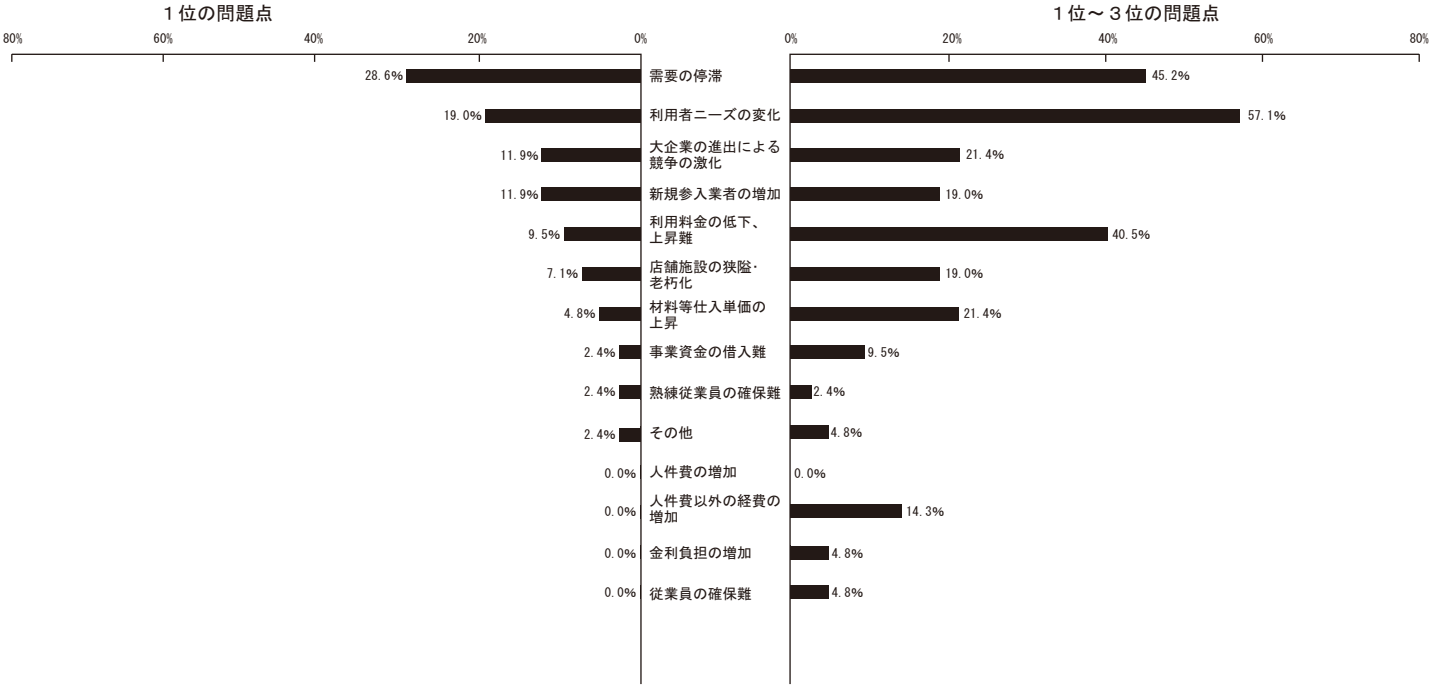
山梨県　サービス業　　設備投資の状況



(4)　経営上の問題点

サービス業の経営上の問題点は、「一位」に挙げたものの中では「需要の停滞」が28.6%で最も多く、続いて「利用者ニーズの変化」が19.0%、「大企業の進出による競争の激化」と「新規参入業者の増加」が11.9%と目立ったところである。そして「一～三位」に挙げたものを見ると、「利用者ニーズの変化」が過半数を超え57.1%で最も多く、続いて「需要の停滞」が45.2%、「利用料金の低下、上昇難」が40.5%とこれら3項目に問題点が集中している。これらの答えから、競争環境の厳しさとともに、市場ニーズに適応できないでいる中小サービス業者の姿が垣間見られる。

山梨県　サービス業　　経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5)　回答企業の内訳

業種別

業　　種	企業数	構成比
一般飲食店	11	25.6
旅館、その他の宿泊所	7	16.3
洗濯業、理美容業	17	39.5
その他のサービス業	8	18.6
合　　計	43	100.0

従業員規模別

雇用形態 ＼ 従業員数	常　雇　い		臨時等含む	
	企業数	構成比	企業数	構成比
２人以下	31	72.1	27	62.8
３人～５人以下	8	18.6	8	18.6
６人～１０人以下	4	9.3	5	11.6
１１人～２０人以下	0	0.0	1	2.3
２１人以上	0	0.0	2	4.7
合　　計	43	100.0	43	100.0